

施策番号	0101		
施策名	自然環境とくらしを気遣う環境の保全		
概要	優れた自然環境を後世に伝えていくため、自動車の排ガス対策等、自然環境、生活環境保全に向けた取組、環境問題に対する市民の理解と行動を広げる環境学習を推進する。		
担当局・部室	環境政策局・環境企画部、地球温暖化対策室	共管局・部室	
上位政策	1 環境		
施策に関する主な分野別計画等	京（みやこ）の環境共生推進計画、京都市自動車環境対策計画（2011～2020）、京都市地球温暖化対策計画（2011～2020）		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	24年度	25年度	26年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト	
1 エコカーの普及台数(台)	a	a	19,102	30,093※	24,000	125.4%※	a	1.00	
2 こどもたちが実践したエコライフの実施向上率(%)	-	-	9.6	9.8	10	98.0%	b	1.00	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

※ 平成27年6月25日訂正

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	26年度回答						有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかがえのないものと実感している。	83	142	153	70	35	483	b	
	17.2%	29.4%	31.7%	14.5%	7.2%			
2 「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	68	233	137	68	25	531	b	
	12.8%	43.9%	25.8%	12.8%	4.7%			
3 -							-	
4 -							-	
5 -							-	
市民生活実感調査総合評価								b

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					25年度	A
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 環境の保全のためには、自動車の排ガス対策としてエコカーを選択する市民や事業者が増えることが重要である。また環境学習は、環境に優しい行動が根付くことを目的とした長期的な取組であり、その成果はすぐには市民に実感されにくいことから客観指標に重みを置く。						24年度	A
(原因分析) 【客観指標】●エコカーの普及台数は、エコカー利活用の促進、国によるエコカー減税やエコカー補助金の実施もあり、3年連続a評価と、高い評価で安定している。 ●子どもたちが実践したエコライフの実施向上率は、こどもエコライフチャレンジ推進事業における全市立小学校での実施が5年目を迎え、取組の浸透によりb評価となった。 【市民の実感】子どもたちの自然環境への意識は、上記事業等による取組の結果、c→b評価と昨年度から改善しており、生活環境については、おおむね良い環境が保たれていることから、昨年度に引き続きb評価となった。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	(財)京都市環境事業協会運営	34,383	-	-	環境政策局
2	「世界一美しいまち・京都」の推進	31,969	38,298	良い	環境政策局
3	KYOTO地球環境の殿堂	10,067	11,914	良い	環境政策局
4	こどもエコライフチャレンジ推進事業	29,218	28,250	良い	環境政策局
5	次世代自動車普及促進	20,782	27,330	悪い	環境政策局
6	太陽エネルギー利用設備資金融資制度(旧環境保全資金融資制度)	5,770	26,358	かなり悪い	環境政策局
7	身近な自然度調査	5,756	5,859	良い	環境政策局
8	京都市低公害車普及促進事業	2,164	2,482	普通	環境政策局
9	生物多様性保全推進事業	-	37,824	-	環境政策局
10	ダイオキシン類対策	30,016	30,753	良い	環境政策局
11	大気汚染対策	182,354	210,804	普通	環境政策局
12	水質汚濁対策	105,347	117,604	普通	環境政策局
13	騒音・振動対策	59,206	61,082	普通	環境政策局
14	公害苦情処理及び公害防止事前相談	106,243	108,511	良い	環境政策局
15	北部農林業地域活性化対策	-	7,659	-	産業観光局
16	京都市環境保全活動センター(京エコロジーセンター)	150,405	157,481	-	環境政策局
17	公衆トイレ整備	17,987	38,917	-	環境政策局
18	生物多様性地域戦略策定	27,258	-	-	環境政策局
19	大岩街道周辺地域の良い自然環境づくりの推進	8,839	5,123	-	総合企画局
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- 今後も市民や事業者の皆様、カーシェアリングや公共交通機関の利用拡大など普及啓発を行うとともに、電気自動車等の導入や充電設備の設置促進などにより、電気自動車や低公害・低燃費等エコカーへの転換を図っていく。
- 環境学習については、社会情勢の変化によるプログラム内容の見直しやフォローアッププログラムにより、さらに充実した取組を続けていくことで環境に優しい行動が根付くように努める。
- 以上のことにより、自然環境及び生活環境の保全に努めることで市民生活実感の更なる向上を図る。

施策名	0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全
-----	------	-------------------

指標名	エコカーの普及台数(台)
-----	--------------

担当課	環境管理課	連絡先	222-3951
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

EV（電気自動車）、PHV（プラグインハイブリッド自動車）、HV（ハイブリッド自動車）及びCNG（圧縮天然ガス自動車）等の京都市内での普及台数

2 指標の意味

環境の保全のためにエコカーの選択、普及状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：各種エコカーの台数を加算
出典：軽乗用は(社)全国軽自動車協会連合会及び本市納税推進課、それ以外は(財)自動車検査登録情報協会の情報による

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	23年度	24年度		数値	根拠	達成度
数値	19,102	30,093	17,527 台増	24,000	平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	125.4%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		12万	32年度	30.5%	京都市自動車環境対策計画<2011~2020>

備考	算定に用いるデータの収集時期の関係から、平成24年度値が最新となる。 ※ 平成27年6月25日最新数値及び達成度を訂正
----	--

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、社会・経済情勢などの影響により、EV・PHVの生産量等が不安定となる場合があり、不確定要素が比較的多いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

24	25	26
a	a	a

指標名	子どもたちが実践したエコライフの実施向上率(%)
-----	--------------------------

担当課	地球温暖化対策室	連絡先	222-4555
-----	----------	-----	----------

1 指標の説明

家庭部門における温室効果ガス排出量の削減に向け、各家庭で子どもたちが取り組む省エネ・省資源の実施状況を取組前後で比較し、改善度を示す指標

2 指標の意味

各家庭での子どもたちのエコライフの取組成果について、取組前の数値から10ポイント向上することを目標としている。

3 算出方法・出典等

取組後実施度－取組前実施度

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	9.6	9.8	0.2ポイント増	10	取組改善率が10ポイント向上する	98.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	子どもエコライフチャレンジは、全校で実施するという目標を達成したため、取組内容の充実を目指して、指標を変更
----	---

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：10以上
b：7.5以上～10未満
c：5以上～7.5未満
d：0以上～5未満
e：0未満

6 基準説明

毎年、当該事業に参加する子どもたちが変わるため、単年度評価指標を設定。子どもたちのエコライフの取組が、取組前から10ポイント向上することを目指している。

7 評価結果

24	25	26
-	-	b